

1 令和7年度の成果と課題

令和6年度は、複数の資料から必要な情報を選び、事実を正確に読み取ったり、読み取った情報を課題解決に向けてまとめたりする学習を行ってきた。「活用」で目標値を上回った学年もあったが、知識の定着といった「基礎」と、読み取った情報を基に選択・判断、表現するといった「活用」ともに目標値を下回った学年もあった。児童は日頃からニュースを観ない傾向にあり、社会的事象に興味・関心が低い。社会科の見方・考え方の楽しさに気付くよう生活と結び付けた授業を行う必要がある。

2 今年度の調査結果の分析

「第4学年」

「基礎」、「活用」共に正答率の平均が目標値を下回った。観点別でも、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に正答率が目標値を下回った。「安全を守る働き」領域の正答率が目標値より10点以上低くなっている。

「第5学年」

「基礎」が目標値を少し下回り、「活用」が目標値を上回った。観点別では、「知識・技能」は目標値よりも下回ったが、「思考・判断・表現」が目標値を上回った。「伝統や文化、先人の働き」の領域と「特色ある地域の様子」の領域の正答率は、目標値を上回った。しかし、「生活環境を支える活動」の領域の正答率は、目標値より低くなっている。

「第6学年」

「基礎」、「活用」共に目標値を下回った。観点別でも、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に正答率が目標値を下回った。「国土の自然などの様子」の領域の正答率は、目標値より10点以上低くなっている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 基礎的・基本的な「知識・技能」の定着を図る。

中: 地図記号、四方位と八方位、等高線、都道府県の位置と名称、教科書の「ことば」の欄に掲載されている代表的な用語(「税金」など。)について、授業の始めにフラッシュカードなどを用いて繰り返し唱えさせることで定着を図る。

高: 八方位、主な国の位置と名称(「オーストラリア」、「韓国」など。)、日本の領土の範囲(「沖ノ鳥島」など。)、日本の主な地形の名称と位置(「琵琶湖」など。)、教科書の「ことば」の欄に掲載されている代表的な用語(「食料自給率」、「マスメディア」など。)について、授業の始めにフラッシュカードなどを用いて繰り返し唱えさせることで定着を図る。

2 読み取ったことをグラフにまとめる「技能」の向上を図る。

中: 必要な情報を選び、事実を正確に読み取ることができるようにする。(方位、記号、高さ、区分、数など。)

高: 読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能を高める。(数値情報をグラフに転換させるなど。)

3 資料を基に考察する「思考力、判断力、表現力」を高める。

中: 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、ペア学習を通して言葉で表現する力を高める。

高: 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、ペア学習を通して言葉で説明させたり、グループ学習を通して議論させたりして思考力、判断力、表現力を高める。

4 日常的な社会的事象への興味・関心を高める。

中: 学習したことを基に、自分ができることや、協力したいことを考えさせる。

高: 学習したことを基に、これからの社会の発展について考えさせる。